令和４年度　小平第五小学校卒業式　校長式辞

皆さんの今日の晴れの門出を祝うかのように、冬を耐え越えた桜が、今爛漫と咲き誇っています。

卒業生の皆さん。ご卒業おめでとうございます。

そして、保護者の皆様、本日はお子様の晴れのご卒業、誠におめでとうございます。これまでどれほどか心をこめて育ててこられたか、お喜びもひとしおのことと存じます。心からお祝いを申し上げます。

また、本日は、小平市教育委員会教育総務課長・市川裕之（いちかわひろゆき）様をはじめ、ご来賓の皆様には、ご多用のところ本校卒業式へのご列席を賜り、心から御礼申し上げます。

さて、振り返るに、皆さんの小学校生活の半分は、新型コロナウィルス感染症拡大防止の戦いとともにありました。４年生は、臨時休校で始まり、その年の運動会は中止となりました。５年生になっても感染の拡大はやまず、７月には４度目の緊急事態宣言が出ました。この年に、一人１台の端末が貸与され、ＧＩＧＡスクールがスタートしました。緊急事態宣言が延長

される中、１年越しの東京オリンピック・パラリンピックでの相次ぐメダルラッシュに日本中が勇気づけられました。

皆さんが、６年生になったとき、小平市の校長先生たちの願いのひとつは、移動教室を何とか２泊３日で行いたいというものでした。２年間途絶えていた連合音楽会も何とか実現したいと、協議に協議を重ねました。そして、一つ一つの行事を実行していきました。それに対し、皆さんは見事な挑戦で応えてくれました。皆さんの、最高学年としてのテーマは「絆」でした。伸び伸びと、生き生きと、取り組む皆さんの姿は、眩しささえ感じました。

さて、運動会でのＴシャツを着て臨んだ連合音楽会。それに向けて皆さんが挑戦した歌は、「空は今」でした。この歌は、皆さんもご承知のように、長崎の原爆がモチーフになっています。

歌の歌詞をもう一度振り返ってみましょう。

「空は今、何色ですか」

と、問いかけるのは、一体誰なのでしょう。

「あの日と同じように」の「あの日」とは、どんな日々だったのでしょう。

「空は今、青いですか」
「青」という色に込めた、イメージは一体何なのでしょうか。
長崎の町に原爆が落ちた後、空が真っ黒になり、
その中に真っ赤な太陽が浮かんでいたといいます。
当り前の日常、大切な人の笑顔、希望の未来、
幸せを一瞬にして奪われた、あの悲劇だけは二度と繰り返して欲しくない。今、あなたの上に広がる空は、
爆弾が落ちる前のあの青い空であって欲しいという、
切なる願いが込められているように聞こえてなりません。
そして、歌の中で歌われる「今」は、
「希望のあしたを照らしている・今」です。
そして、その「今」に最後もう一度、
「空は今、何色ですか」
と言葉が重なります。頼むよ、平和を守ってください。
という切なる願いと余韻を残してこの歌は終わります。
今日、この卒業式でもう一度この歌を歌います。
この平和への思いを共に胸に刻むことで、私達は「絆」をさらに深く確かなものにしたいと思います。そして、

これから始まる生活の中での様々な出会いを通して、この平和への絆をさらに広げ、確かにしていくことが、この歌の心を学んだ者の使命だと思います。そこには、誰よりも上だとか下だとか、もはや関係ありません。平和で豊かな世界をみんなで創っていくのです。みんなで励ましあって進むのです。

皆さんは、これからも学び続けます。それは、もちろん自分自身を幸せにするために学ぶのです。そして、それが世界の誰かの笑顔につながっていくこと、平和で豊かな世界につながっていくことを信じて学んでいって欲しいと思います。

これからの皆さんの人生は、決して平たんなものではないでしょう。しかし、「自分らしく」、「みんなの笑顔が、自分の幸せだ」と、どこまでも優しさと明るさを忘れない皆さんであってほしいと思います。

「今、別れの時、飛び立とう未来信じて」

「この広い、大空に！」

皆さん自身の手で、大いなる希望の明日を切り開いていくことを念願し、お祝いの言葉といたします。

令和５年３月２４日

小平市立小平第五小学校長　松本　雅史